

## 第7回選定委員会 議事概要

1 日 時：平成 21 年 3 月 9 日（月）13：30～15：10

2 場 所：大手町サンケイプラザ 3F 312 号

3 出席者：〔委員〕坂田誠（委員長）、佐々木聡、飯田厚夫、合志陽一

鈴木謙爾、高原淳、栗原和枝、藤井保彦、勝部幸輝、片桐元、  
尾形 潔

〔JASRI〕吉良爽理事長、大野英雄専務理事、野田健治理事、鈴木昌世

〔オブザーバー：文部科学省〕林孝浩 大型放射光施設利用推進室長  
阿部圭一行政調査員

〔事務局〕牧田知子、杉本正吾、山田裕弘

### 4 配布資料：

資料選 7－1：第 6 回選定委員会議事概要（案）

資料選 7－2：利用促進における重点領域指定活用の方角性について（案）

資料選 7－3：SPring-8 学術国際評価

資料選 7－4：2009A 期利用研究課題審査結果について（報告）

資料選 7－5：平成 21 年度指定パワーユーザーの選定結果について（報告）

資料選 7－6：産業利用Ⅱビームライン（BL14B2）における

XAFS 測定代行 実施状況

資料選 7－7：タンパク質結晶メールイン測定サービス事業の

「測定代行」利用制度への移行について

※ 産業利用ビームライン測定代行（試行）利用者アンケートまとめ

※ SPARC Report

### 5 議 事：

#### 1）開 会

開会にあたり、JASRI 吉良理事長より挨拶があった。

産業利用において成果が出ていることにより JASRI や SPing-8 の社会的信用が上がった。高度な研究施設が産業に使われ、その結果が社会に反映している事の実例を顕在化できた。これらの成果により、来年度は予算削減の中でも例年と同程度の運転ができる見込み。今後は 8 割を締めている学術利用で成果を示すため何をすべきかをユーザーも、施設側も考える時期である。施設側として何らかテコ入れをする必要がある。その際に頼るのはこの選定委員会となる。この度の説明事項となっている「利用促進における重点領域指定活用の方角性について」でも、そのコンセプトとなるものを提示するので、議論をいただきたいと述べた。

続いて、文部科学省の林大型放射光施設利用推進室長より挨拶があった。

始めに、委員各位に対し、光・量子ビーム科学技術に対しての多大なる支援、協力並びに SPing-8 が本格的な利用期に入れたことへのご尽力に対し、謝意を述べられた。昨年度は、年間 2,000 課題以上の利用研究課題が実施され、14,000 人以上が利用し、SPing-8 は学術研究のみならず産業界に開かれた共同利用施設へと着実に進展している。一方、大型研究施設の財政状況は非常に厳しく、行政改革、公益法人への支出 3 割カットにより国からの交付金及び運転委託費などが削減された。ただ、我が国全体が厳しいとの認識の下、予算が削減されたからといって、運転時間が大幅に減ったり、支援ができなくなるという事では、世間に対

して説明ができない。効率的な運営を行うことにより、予算削減の状況でも運転時間を維持し、支援の質の向上を図る事が大事になっていく。そして、これをもって今後の予算要求につなげる事も大事であると考えている。本日は重点領域指定活用の方向性について議論されるとの事で、委員各位には大所高所からのご意見をいただきたいと述べられた。

## 2) 前回議事概要の確認

資料選 7-1 により、第 6 回選定委員会議事概要（案）について確認、了承された。

## 3) 説明事項

### (1) 利用促進における重点領域指定活用の方向性について

JASRI 野田理事から資料選 7-2 により説明があった。

質問：第 4 期科学技術基本計画がどのように進みつつあるのか聞きたい。

回答：平成 23 年の 1 年半ほど前から、総合科学技術会議において専門部会を開いて議論すると思う。文科省としては、その議論に反映させるべく、文科省内にて議論を行っている。

質問：現在ある JASRI のプログラムを手直ししてできるものと、でないものがあるのか。

回答：既存の重点プログラムについて発展的に進めることが適切とされている。新たに提案しているものは実施の仕方の切り口であり、内容自体は、これまでの重点領域でも、例えば、相補的な手法を駆使して実施するということになる。既存のプログラムと違った観点からテーマを絞った施策案である。

質問：この施策案は、実態としてビームライン指定型ではないと考えて良いか。

回答：今のところ、特に指定は考えていない。

意見：もう少し議論が煮詰まってくると、少しずつビームラインが想定できてくるのではないか。

質問：この施策案と現在のプログラムを平行で運用するのか。

回答：平行というよりは先程申し上げたように、異なる切り口の実施方法のものを推進しようというものである。例えばナノテクの課題で時局即応利用領域に該当するテーマであれば重点的に推進することとなる。

意見：資料にある「大型放射光施設に関する中間評価報告」の中で、研究成果に基づいて定期的に重点課題領域を評価し、対象となる研究分野を適切に見直すことが重要である。とあるが、研究分野においては、新しい研究も出現すると思うので研究領域の動向も眺めながら、研究分野を適切に見直すことも重要であると思う。研究成果だけでもって研究分野を見直すと、新たな研究領域の推進と反する事になる可能性があることから、新しい領域ということも含めて評価する事が大事だと思う。

未踏領域など、チャレンジングな分野の評価で、定量的でないやり方、うまく行かなかった時の説明の妥当性の判断や、具体的な目標であれば数値化されていなくても可とするなど、目標設定や評価について考えていただきたい。

回答：従来のユーザーコミュニティの価値観を超えた価値観でもって評価ができるようにしたい。

評価のあり方について、例えば、未踏利用領域などに関して SPring-8 で枠を設け、

P R Cにおいてしっかり議論し、将来の科学技術を牽引するような領域に投資するような枠が作ればいいと思う。

質問：時局即応利用領域のタイムスパンはどれくらいを想定しているか。

回答：1 ヶ月や 2 ヶ月が勝負というものには緊急課題で対応する。重点領域の考え方に関して現在想定しているのは1年ないし2年ぐらいのスパンと考えている。

質問：例えば、時局即応利用領域について分野の専門家と測定者側のギャップ（その分野の専門家はすでに解決した課題として認識しているものを測定者は時局即応課題と主張するといったギャップ、）を埋める方策を考えているのか。

回答：重要なのは、有能なコーディネータ的な要員を擁することが出来るかだと思う。学術でも、産業利用のような利用支援体制が必要だと思う。

意見：未踏利用領域で現在の SPring-8 では測定不可能な試料でも、新たな装置を設置して測定可能にするようなことも考えてはどうか。

回答：現在 12 条枠で将来に向けての先行的な研究をしている。未踏分野領域の研究なども 12 条枠を用いた JASRI の研究者との共同研究などとして実施することも可能だと考える。

意見：例えば、宇宙利用研究などとの相補的利用推進領域などについても是非、総合的に進めて欲しい。

意見：世界の最先端機器を横断的に使う、量子ビームプラットホームは時流に合っている。

回答：時局即応利用領域では、SPring-8 と有能なコーディネータがうまく協力する必要がある。

意見：新たに発見された新奇な物質の研究などについてはうまくコーディネートして、相補的施設をうまく利用する時局即応利用領域の研究としてタイミングよく研究を推進することが重要である。未踏利用領域ではリスクを背負うことができるかがキーポイントだ。

意見：従来の実績をもって評価するやり方以外の評価法が必要だ。ただ、分野が広範であるため、重点化の必要がある。コンセプトとして、今回のような案を盛りこむことが大事である。

意見：未踏利用領域について、課題を選定する際に分野ごとの議論でなく、将来の国家や、世界の行く末を見据えるような議論を SPring-8 が音頭をとってやってもらいたい。また予算面でもリスクを覚悟して、自由に使える予算枠を設けてはどうか。

意見：JASRI が率先して、特定テーマをつくり、ビームタイムを確保するような方策を行っていただくのがありがたい。タンパク 3000 型でやれば応募があるのではないか。

質問：未踏利用領域で長期間利用するような課題においては、中間や最終の評価をなくすという考えはあるのか。

回答：評価は必要だと思うが、その結果が後の選定に響くことはないようにしたい。

意見：未踏利用領域にチャレンジしたというアクティビティは評価すべきではないか。失敗しても、失敗の原因を説明させ、説明の妥当性の判断すればいいのではないか。

意見：評価項目の中に未踏の領域をやった事を加えてはどうか。

#### 4) 報告事項

(1) SPring-8 学術国際評価 (S P A R C) について  
JASRI 大野専務理事から資料選 7-3 により報告があった。

(2) 2009 A 期利用研究課題審査結果について  
利用研究課題審査委員会の飯田委員長から資料選 7-4 により報告があった。

(3) 平成 21 年度指定パワーユーザーの選定結果について  
パワーユーザー審査委員会の坂田委員長から資料選 7-5 により報告があった。

(4) 産業利用Ⅱビームライン (BL14B2) における  
XAFS 測定代行の実施状況について  
JASRI 野田理事から資料選 7-6 により報告があった。  
質問：利用者に返却するデータは、どのような内容を利用者に渡すのか。  
回答：測定データのみを渡す。

(5) タンパク質結晶メールイン測定サービス事業の  
「測定代行」利用制度への移行について  
JASRI 野田理事から資料選 7-7 により報告があった。

(6) その他(外国人による利用研究課題の評価について)  
JASRI 野田理事から報告があった。  
質問：外国人専門家は分科会の下に位置づけられるのか。  
回答：そのように位置づける。ただ、外国語の課題申請分だけを別に評価する。  
質問：試行して、問題なければその後どう扱うのか。  
回答：うまくいけば、しばらくこのまま継続させる。  
意見：分科会でも審査委員会でも、外国人を入れるのなら、全ての課題申請は英語にすべきでないか。日本語課題の内容を知らずに、一部の英語課題のみを審査するのであれば、自分の審査結果に責任が持てないと思う。  
回答：申請数の量を考えると、それは難しい。  
意見：日本人の英語力では、本来の申請内容の 6 割程度しか表現できないのではないか。  
回答：1 人 40 件程度の審査を行うので、難しいと思う。  
意見：1 人 20 件は可能であるが、40 件は大変である。

6 閉 会

以 上